

国自整第321号の5
平成27年12月25日

東北運輸局自動車技術安全部長 殿

自動車局整備課長
(公印省略)

事業用自動車の緊急点検の実施及び保守管理の徹底について

標記については、平成26年3月7日付け国自整第365号「事業用自動車の保守管理の徹底について」及び平成26年11月21日付け国自整第225号「事業用自動車の緊急点検の実施について」により、高速乗合バス等の事業用自動車を運行する自動車運送事業者などに対して、車枠・車体の腐食に関する事故再発の防止を図っているところである。

また、三菱ふそうトラック・バス株式会社では、車枠・車体の腐食に関し、バス車両床下の防錆点検と補修要領等を取りまとめホームページ上で公表するとともに、同社製の大型バス（MS型、MM型）の使用者に対してダイレクトメールや電話等により点検整備の必要性について説明してきたところであり、今後、中型バス（MK型、MJ型）についても同様の措置を講じる予定となっている。

しかしながら、平成27年11月12日に宮城県内の東北縦貫自動車道において、東北運輸局管内の貸切バス（三菱・KL-MS86MP（平成16年式））がハンドル操作不能となり、中央分離帯に衝突し、乗客7名が負傷する事故が発生した。事故原因については、現在調査中であるが、車枠の主要骨格部分の腐食によりハンドル操作が不能となった可能性が考えられるところである。

これまで、車枠・車体の保守管理についての注意喚起をしていたにもかかわらず、当該事故車両の車枠・車体は別添1のとおり著しく腐食が見られ、同種の事故が再発したことは重く受け止める必要がある。

ついては、同種事故の再発防止を図るため、別添2のとおり関係団体等に対し通知し、別添3のとおり地方運輸局自動車技術安全部長及び沖縄総合事務局運輸部長に通知したので、了知されたい。